



がくし



摂南大学図書館報

No. 62

2000.6

学而時習之、不亦説好乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説よきばしからずや—

*題字は王羲之の書による

館長に就任して

いま い ひろ ゆき
 図書館長 今 井 弘 之



この四月から本学図書館長を努めることになりました。広い教養と深い学識を具えられた歴代の館長の先生方に比べて甚だ浅学な私ではありますが、精一杯本学図書館の充実に努めて参りたいと考えておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

本学図書館は開設以来25年を経過し、現在蔵書数約47万冊を数えるようになりました。すでに蔵書数は図書館の収容能力を大幅に超えています。さらに毎年約2万冊づつ増え続けており、これに対応することに苦慮しております。独立図書館を望む声も日増しに強くなるようです。われわれもまたそれを望んでやみません。

一方で、書物の形態が紙に印刷して綴じするという形から他のメディアへと広がりを見せています。文字や画像をデジタル化しハードディスク、CD-ROMやDVD-ROMなどに記録するといったものです。これによって情報の圧縮が可能になるだけでなく、欲しい本や情報の検索が容易になります。こうした状況に対応するために本学図書館のコンピュータシステムは今年度中に全面的に更新される予定です。その暁には、インターネットを通し

て、何処からでもまた何時でも本学図書館の蔵書データベースを利用できるようになり、また他の図書館の蔵書に関する情報を手に入れることが容易になります。

図書館が便利になり、大量の書物・情報に接することができることはありがたいことではあります。ともすればただひたすら読むだけということになりかねません。本を読むことは良いことですが、読んで考える、あるいは考えながら読むとすることがなければ、学んだことが身に付きません。しかしながらすべての書物をこのように熟読することは不可能でしょう。熟読に値する書物を見極めなければなりません。それには書物あるいは情報の質を嗅ぎ分けるセンスを磨くことが大事です。

一般に、良いものに接し続けければ評価力が養われると古くから言われています。すなわち、良質の書物に数多く親しむことがそのセンスを磨くための最も確実な方法であろうと思います。ぜひ学生諸君も図書館で多くの本を読み、良い文章・情報・書物を見極める力を養って下さい。

(工学部教授)

～ 目 次 ～

館長に就任して（今井弘之）……………	1
資料紹介 American Campus Life(吉田信介) ……	2
資料紹介「理事長30年藤田進の学校経営は？」……………	3

図書館員の仕事……………	4～5
図書館利用統計（1999年度）……………	6～7
前期休日開館日程など……………	8

資料紹介

American Campus Life

国際言語文化学部 教授 吉田 信 介



このシリーズはNancy、Bess、Georgiaの3人の新入女子大生が様々な体験を通して1人前の大学生となっていく様子を描いたものであり、キャンパスライフを通じてアメリカ社会の一端を垣間見ることができるものである。ここで描かれている大学町の通りには古いビクトリア調の建物が並び、有機栽培食料品店、学生向け食堂、古本屋、コインランドリーが軒を連ねている。郷里で別れてきた人々に思いを馳せながら彼女たちがまず取りかからねばならないことは、学生寮に入り、これから少なくとも1学期間は同室しなければならないルームメイトと友好関係を結ぶことにある。

次は寮の部屋でナンシーとルームメイトの初対面の場面である：

“You must be Nancy,” a cheerful voice said
“I’m Kara. Since you weren’t here, I took the bed
by the window because I’m a little claustrophobic.
That is the rule of the dorm. First come, first pick.”

“That’s great,” Nancy said quickly, even though she was a little disappointed.

ここから、アメリカ社会には早い者勝ちの原則 (first come, first pick) があること、閉所恐怖症 (claustrophobic) というような学術用語が学生の会話で使われること、即座に (quickly) 返事しないと自分が失望していることを相手に悟られると気を使っていること、さらにアメリカは最初にルールをきちんと確認しておく契約社会であることが読み取れる。

また、英語は英検準2～2級レベルの平易な文章で書かれており、しかも学生層が使う口語表現の宝庫でもあるため、読み進むうちに自然な文脈の中で豊かな表現力を習得することができる。

高校を卒業すると物理的・経済的に独立していかなければならないアメリカの同世代の若者のバイタリティーあふれる生きざまから、多少なりとも学びとるものがあれば幸いである。



本館6階普通図書室設置

資料紹介

「理事長30年 藤田進の学校経営は？ 躍進を続ける学園」

「藤田進の学校経営は？」刊行委員会編・発行
1999年刊 (377. 28 F)



本書は本学・摂南大学の創設者であり、本学園・学校法人大阪工大摂南大学の総長・理事長でもある藤田進先生の学校経営の「心」が、学園の歴史に沿って綴られています。前著「国政のウラオモテ・国会30年の藤田進」(1997年刊)の姉妹編にあたります。前著は総長・理事長の生い立ちから国会議員としての活躍、理事長就任に至るまでが中心になっており、本書は理事長就任から今日に至るまで、つまり書名の示すとおり「学校経営が中心になっています。

総長・理事長の経営の「心」は、本書の全編を通じて語られていますが、とりわけ「建学の綱領」や「経営十訓」「仕事十訓」「日常十心」に集約されています。

「建学の綱領」には「世界平和の希求」の文言があります。これは広島に生を受け、原爆投下を間近に体験された総長・理事長の人格の根底にあるものでしょう。また「父母や先祖・恩師・先輩への敬愛の精神」の文言もあります。それは自分を生み育ててくれたものへの「愛」であり、人間の持つ基本的なものでしょう。そこには母校や郷里に対する愛もあります(総長・理事長は本学園旧設置校・関西工学校の卒業生です。いわば皆さんの先輩でもあります)。

そうした「心」で、具体的施策として、総長・理事長は当初から長期展望に立った経営構想を「5か年計画」に組み、遂次推進してこられました。この「5か年計画」は、学園構成員に目標をはっきりと示し、目標達成のための集中力を高めさせたと言えます。

総長・理事長が理事長に就任された当時、学園設置の4年制大学は大阪工業大学のみで、1大学・1学部・5学科という規模でした。現在は摂南大学と広島国際大学を加えて、3大学9学部25学科、大学院7研究科、14専攻となっています。理事長就任後31年の間に学園はこれだけの成長を遂げたのです。この一事を見ても総長・理事長の経営手腕の偉大さが知られます。学部学科等の増

設は毎年のように進められ、それは現在もお続行中です。

その推進力には、総評議長として労働界の頂点に立った運動、30年間にわたる国会議員としての政治活動との中で身に付けられた国際感覚、実社会の深い認識から生まれた経済学博士としての学識がはずかかっており、いずれも机上のものではない実践に裏打ちされた幅広い経歴と人脈が大きくものを言っているのです。

さて、本学については「総合大学摂南大学を開設する」の章で述べられていますが、最も注目されるのは「教育方針」です。その一つに「すべての学生が、ヒューマニズムと寛容の精神に富み、豊かな人間性を愛し、求めることを期待する」という言葉が掲げられています。これは全国で吹き荒れた大学紛争の後に生まれた言葉です。この大学紛争は学生運動家のリンチ殺人という悲惨な事件も招きましたが、そうした状況の下、総長・理事長も工大紛争の渦中であって幾多の辛苦を体験されたからこそ生まれた言葉です。そのことを知ればこの言葉はいっそう輝きを増してきます。

本学の歴史はまだ25年にすぎませんが、学園の歴史はまもなく80年になります。

「過去という泉は深い」という言葉があるように、本学の歴史にも、汲めども尽きぬものがあります。本書を読みながら自分の大学の源流をたどってみると、これまでとは違った「新しい風景」が見えてくることでしょう。そしてきっと未来も開けてくるに違いありません。

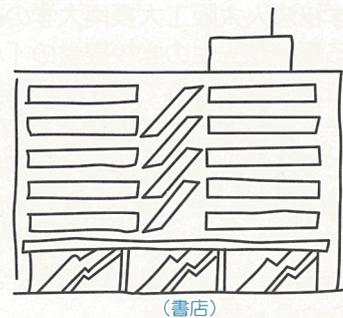
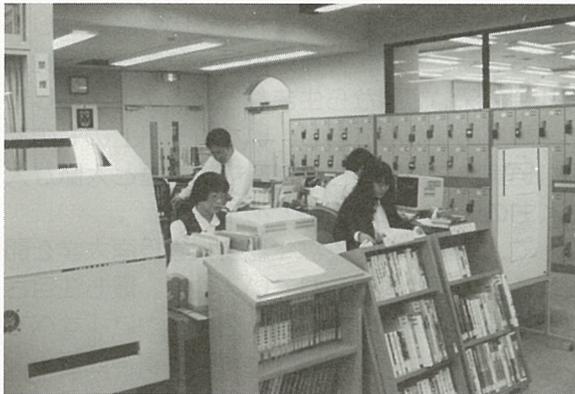
注) 論文「基幹産業社会化の動向」で法政大学から経済学博士の学位を授与。(本館・分館とも“Scholar's Shelf—本学教員寄贈著書コーナー”に所蔵)。このほかに「国政のウラオモテ・国会30年の藤田進」「経済政策と格差問題」「日本経済の展望と福祉」などの著書が同コーナーにある。また、総長・理事長の寄贈図書「藤田文庫」(約2000冊)は本館・参考図書室に設置されている。

(図書課長 勸川捷治郎)

図書館員の仕事

~~~~~ 図書購入から皆さんに貸し出されるまで ~~~~~

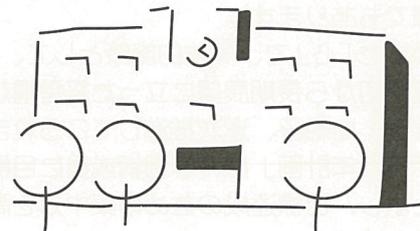
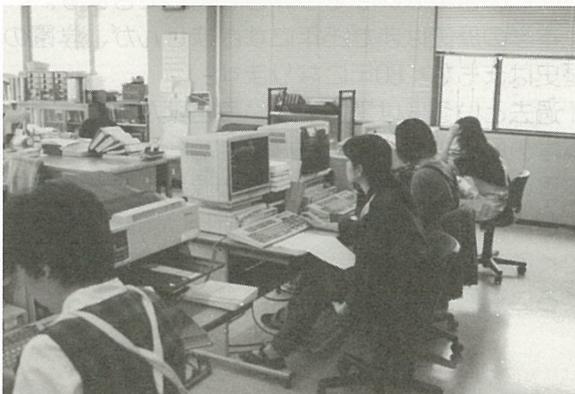
「図書館員の仕事」って皆さんご存知ですか？もしかして図書の返却・貸出をするためにカウンターに座っているだけ、他に一体何があるの？って思っていないですか？実は皆さんの手元に図書が貸出されるまで、いろいろな裏方の作業があるのですよ。今回は皆さんが比較的好く利用される「図書の貸出」について、どのような作業があるのか、紹介します。



図書の選定は、本学図書館の蔵書計画に基づき先生方や図書館員によって行われます。皆さんが図書館に置いて欲しい図書がありましたら、カウンター（6階）に設置の「購入希望図書申込票」に記入して係員に提出してください。



(発注から納品まで和書は約2週間、洋書は約7週間)



購入が決定された図書は、書店に発注されます。できるだけ早く皆さんが利用できるようにするため、その図書について納品の一番早い書店に注文するようにしています。書店から納品された図書は、注文したものに間違いがないか等のチェックが行われた後、代金が支払われます。この後、図書1冊ごとに資料番号が付けられます。





図書は、図書番号ごとにコンピュータで管理されています。一冊ごとにその本の名前や、著者などの目録データを入力し、さらにその本がどの分野の本なのかを判断してそれに対応する分類番号を決定します。目録データは、現在、国立情報学研究所の、全国総合目録データベースに参加して作られています。そして、データ入力が完成した図書は、カバーを糊付けしたり、分類番号シールを張り付けたりなどの装備をします。



事務室（5階）から、各カウンター（4階、5階、6階）に図書を持っていきます。カウンターでは、その図書の配架場所データを入力します。そして、新着図書コーナーの棚に配架されることとなります。又、図書は、分類番号順に並んでいます。

図書館の本を貸りる時は、学生証を見せてください。



いかがでしたか？図書館のサービスを陰で支える仕事。

今回は、図書購入から、貸出まででしたが、図書館には、この他にもっといろいろな、作業や処理があります。雑誌に関するもの、書架に入り切らなくなった図書の移動・処理、データと現物との照合(棚おろし)、購入した本の支払い業務などなどです。皆さんに、より良く図書館を使ってもらえるよう、日々私たちは努力しています。皆さんも、お気付きの点などありましたらどしどし意見をくださいね。

図書館員は皆さんの学習、研究を多いにサポートしたいと考えています。



# 図書館利用統計(1999年度)

図書館では利用者の動向を把握し、運営の参考とするため、毎年利用状況についての各種統計を作成し、誌上で紹介しています。今号も主として学生利用者に関するデータをカウンターからの視点で分析してみました。

## 1. 利用者状況総括データ

〈総括表〉

( ) の数字は前年度比

| 館<br>項目      | 本館                   | 枚方分館                | 計                    |
|--------------|----------------------|---------------------|----------------------|
| 開館日数         | 266日<br>(-5)         | 279日<br>(+1)        | —                    |
| 入館者数         | 250,706<br>(-22,344) | 162,274<br>(-1,600) | 412,980<br>(-23,944) |
| 貸出者数<br>(学生) | 18,582<br>(-275)     | 4,136<br>(+552)     | 22,718<br>(+277)     |
| 貸出冊数<br>(学生) | 36,859<br>(-1,159)   | 7,111<br>(+585)     | 43,970<br>(-574)     |

(注) 本館入館者数には閲覧室(3階)利用者は含まれていません。

開館日数は本館で5日減となっていますが、これは蔵書棚卸期間中の閉館によるものです(98年度は棚卸中も開館)。これに伴い入館者数も減少していますが、これは棚卸と前後して実施した低利用図書の新蔵庫移動作業による一部入館制限の影響と、98年度は入館システムの一時変更で例年以上の入館者をカウントしたための落差が数字に表れたと考えられ、学生の図書館離れとは一概には言えないでしょう。貸出者数・貸出冊数では共に枚方分館が10%前後の伸びをみせ、毎年順調に増加傾向であるのに対し、本館では減少傾向が見られるので、その要因について分析してみたいと思います。

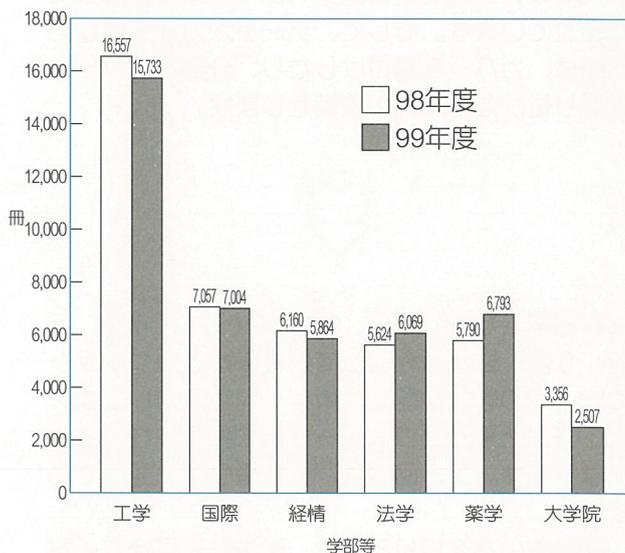
## 2. 所属別貸出状況

工学は毎年増減を繰り返すパターンが続いているため、今年度のマイナスは特に深刻には受け止めていないものの、大学院の著しい減少の原因はどこにあるのでしょうか。これは資料の利用の仕方が、単行本の帯出から、学術論文の入手などへ移行してきた事によるものと思われる。このような中で、法学は94年以来、5年ぶりの増加でした。これは近年の就職難対策とみえる各資格取得目的や、講義と連動した資料利用が多い年であった事が挙げられます。さらに自発的な利用も期待したいものです。結果、全体平均は5.3冊で前年より0.2ポイント減少しました。ちなみに、全国の国

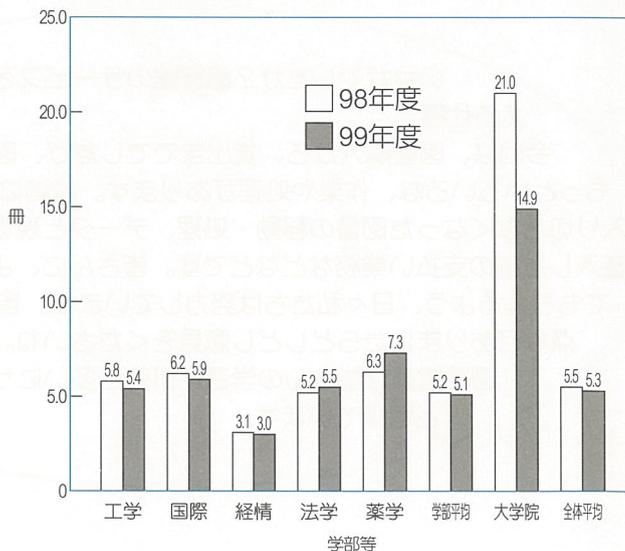
公立大平均は9.4冊、同私立大平均は7.2冊、関西大手私立大平均は10.9冊でした。

(注：他大学等の数値は「日本の図書館'99」から独自に算出)

◆◆学部別貸出冊数◆◆



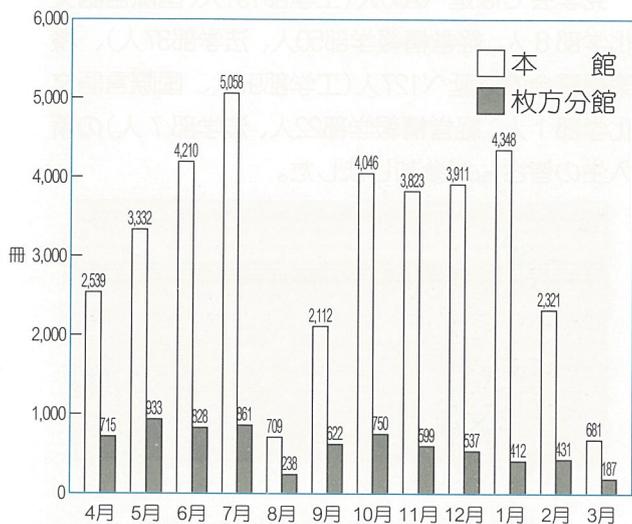
◆◆学部別1人当り貸出冊数◆◆



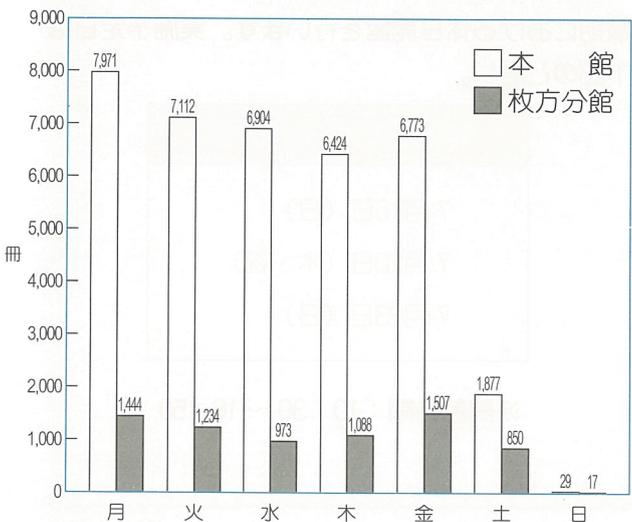
### 3. 月別・曜日別貸出冊数

月別は本館は定期試験期の7月・1月がよく利用されており、枚方分館は8月以外の年間を通してコンスタントに利用されています。曜日別では本館・枚方分館とも、平均したグラフを形成していますが、いくぶんカリキュラムを反映した形になっています。

◆◆月別貸出冊数◆◆



◆◆曜日別貸出冊数◆◆

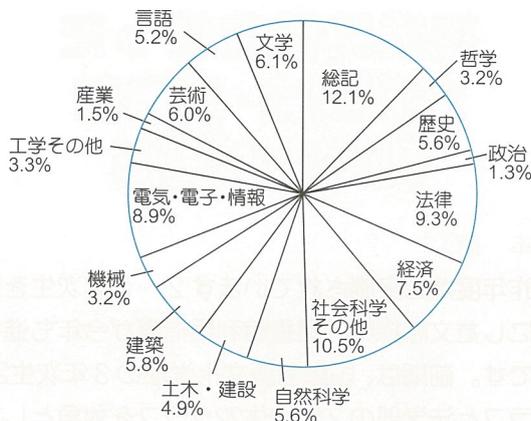


### 4. 分類別貸出冊数

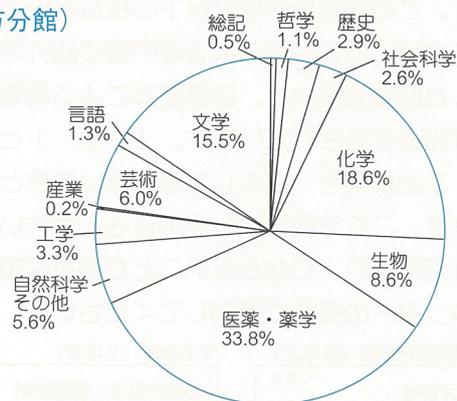
本館・枚方分館とも例年どおり、ほぼ所属学部構成を反映した比率となりましたが、本館では芸術・言語・文学といった分野が、学部構成とは関係なく微増しています。分館では工学分野が微増しており、専門知識はもとより、工学面の知識も必要となってきているようです。

◆◆分類別貸出冊数比率◆◆

(本館)



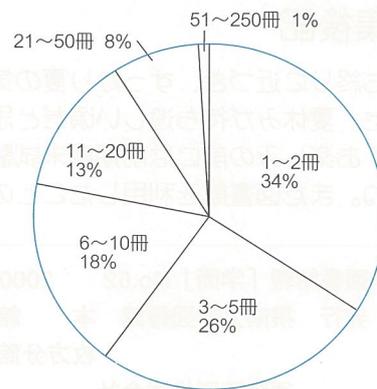
(枚方分館)



### 5. 冊数別貸出者数

図書を借りたことのある人は全体の6割を越え、前年度比率より10%近く増加しました。これは図書館に足を運んだことのある学生が増加したと言え、喜ばしい結果となりました。図書を借りたことのある人の中では、本館・枚方分館とも利用が5回までの人で半数を越えており、ほぼ例年どおりでした。

◆◆回数別貸出者数比率◆◆



# 授業時間を使った 文献探索・図書館 利用指導実施

## 〈本館〉

昨年度から実施されています2～3年次生を対象にした文献探索・図書館利用指導が今年も進行中です。前期は、国際言語文化学部の3年次生24クラスと法学部の2年次生22クラスを対象としています。この講習の内容は以下の様な計画で進められており、担当教員による専門書の紹介等を中心とした図書館案内と、図書館員による情報検索実習が組み合わされています。「今更…」という学生、また検索を一度もした事のない学生と様々でしたが、これを機会に学生の皆さんが大いに図書館を活用され、わからないことがあれば遠慮なくカウンターに係員に質問してください。

### ▼国際言語文化学部（3年次）

|                                                            |     |
|------------------------------------------------------------|-----|
| ①ビデオ研修<br>(3階 閲覧室)                                         | 20分 |
| 館内移動                                                       |     |
| ②情報検索実習<br>● 図書検索<br>● CD-ROM検索<br>● インターネット検索<br>(5階 図書室) | 20分 |
| [質疑応答/自由見学]                                                |     |
| ③館内見学・概要説明<br>● 4階 学術雑誌室<br>● 5階 参考図書室<br>● 6階 普通図書室       | 20分 |

### ▼法学部（2年次）

|                                                                   |     |
|-------------------------------------------------------------------|-----|
| ①館内見学・概要説明<br>● 4階 学術雑誌室<br>● 5階 参考図書室<br>● 6階 普通図書室<br>(1階 保存書庫) | 20分 |
| ②情報検索実習 I<br>● 図書館所蔵検索<br>(6階 図書室)                                | 20分 |
| [質疑応答/自由見学]                                                       |     |
| ③情報検索実習 II<br>● インターネット検索<br>● CD-ROM検索<br>(5階 参考図書室)             | 20分 |
| [質疑応答/自由見学]                                                       |     |

# 新入生対象図書館見学会および 所蔵検索講習会実施！

図書館見学会および所蔵検索講習会を4月10日(月)、11日(火)の2日間実施しました。見学会では延べ286人(工学部191人、国際言語文化学部8人、経営情報学部50人、法学部37人)、検索講習会では延べ127人(工学部97人、国際言語文化学部1人、経営情報学部22人、法学部7人)の新入生の皆さんが参加しました。



## 《前期休日開館日程》

図書館では皆さんのご要望に応え、前期期末試験期における休日開館を行います。実施予定日は下記のとおり。

| 寝屋川本館・枚方分館 |  |
|------------|--|
| 7月16日(日)   |  |
| 7月20日(木・祝) |  |
| 7月23日(日)   |  |

※開館時間：10：30～16：50

## § 編集後記

● 梅雨も終りに近づき、すっかり夏の気配となりました。夏休みが待ち遠しい頃だと思います。でも！お楽しみの前には前期期末試験がありませうね。まだ図書館を利用したことのない人も、

よく利用している人も、これを機会にもっと図書館に親しんでください。

● ご多忙中、今号の編集にご協力くださいました皆様方に厚くお礼申し上げます。